

# 日々 往来

岡本 敏男



10月17日は「貯蓄の日」でした。この記念日は、終戦後に高進するインフレの抑制と疲弊した日本経済の再建のため、国民に貯蓄を呼び掛けることを目的に、日本銀行と関わりの深い金融広報中央委員会（知るぽろ）の前身が定めたものだ。時代は変わったが、貯蓄の役割は教育や

## 備えあれば

老後といった人生の特定の目的、万が一の備えとしての大切な今も変わらない。再考など、さまざまな対応に懸命に取り組んでいる。金融リテラシーは、ある意味で防災と似たところがあり、特に家計管理や将来に向けた資金計画など、基本的なこと的重要性が改めて認識されたように思う。

昨年3月に実施された「金融リテラシー調査」では、「病気、失業、不景気などの方が一の事態に備えて、3カ月分の生活費を確保してありますか」との質問に「いいえ」と回答した人は全国平均で31.7%、鳥取県はなんと全国最多の41.3%に上っている。知るぽろとや関係団体はホームページなどを通じ、金融リテラシーを高めるさまざまな情報を提供している。日本FP協会が公開する「FPが教える家計再建のポイント」の最新版は、コロナ禍の下で家計が収支や生活設計の見直しをする際の要点をコンパクトにまとめている。

今年に入ってからコロナ禍の中で、各家計は収入の減少や「新しい日常」の下での支出内容の変化、将来の生活不安の増大といった予想外の影響を大きく被った。これを上手に活用し、人生百年時代の備えをより強固なものへと見直す機会にしてほしい。

出管理、将来のマネープランの（日本銀行鳥取事務所長）